

《雑学風味》「最も多い果物」

地球上で一年間に採れる主要果実の量は約一億トンで、そのうちの約40%をブドウが占めており、そのまま食べられる生食用は全体の2割、残りの8割はワインを作るために使われるそうです。

まちのでまごど

㈱アルビオン白神研究所

旧米田保育園で開所

7月27日、旧米田保育園において、㈱アルビオン白神研究所の開所式が行われました。

この研究所は、昨年6月県の活力ある農村集落づくり推進事業チームに名乗りを上げた㈱アルビオンから、藤里町が化粧品の研究施設整備の協力要請を受け、旧米田保育園施設の貸付を決めたことでこの日の開所を迎えました。

開所式には、㈱アルビオン、県や町から多数の関係者が出席し、小林章一社長から「県や町の迅速な対応・協力により研究所の開所を迎えることができた。会社イメージにぴったりの白神の地と出会えて良かった。1日も早く町の仲間として認めてもらえるよう地域振興に貢献していきたい」と挨拶があり、これを受け石岡町長から「CSR活動（社会的責任活動）に積極的に取り組む姿勢や、この開所式に会長、社長をはじめ多くの関係者が出席していることから会社としての意気込みを感じる。その思いから今日の開所となった。町として全面的に支援していきたい」と挨拶がありました。

㈱アルビオンでは、白神山地のふもとである藤里町において、白神の植生を生かした化粧品原料となる植物の委託栽培を行うほか、研究所を拠点とし、ハトムギやヨモギ、クマザサ、ドクダミなどの自社植物園を作り、独自の美容成分を開発していく予定です。



研究の成果が期待されます

体験ツアーで

夏の藤里を満喫

7月28日〜30日の3日間、藤里町ツーリズム協議会主催のツアー「白神山地の麓・夏の藤里を満喫しよう」が行われ、埼玉県から児童9名、藤里町内から児童13名、保護者1名が参加しました。

このツアーは、県の「秋田発・子どもの双方向交流事業」を活用し、都会では体験できない農山村での田舎の生活を首都圏の子どもたちと地元の児童が交流しながら体験することで、地域の魅力を再発見し、思いやりの心豊かな人間性、社会性などを育むことを目的として実施されました。

参加した児童達は、初日の歓迎会でこそよそよそしかったものの、3日間の様々なイベントを通じて交流を深めていました。中でも、2日目に行われた岩魚のつかみ捕りや川遊びでは、普段の生活で味わえない生きた魚の感触や、川の水の冷たさに悲鳴を上げていましたが、多種多

様な生き物を自分の手で捕まえ、観察できる体験に大満足の様子でした。



岩魚の感触にドキドキ

地域のつながりを求めて

町社会福祉大会

7月31日、総合開発センターにおいて、藤里町社会福祉協議会（市川静子会長）による第35回藤里町社会福祉大会が開催され、約250名の関係者、町民が参加しました。

「福祉でまちづくり〜笑顔がうまれるまちづくり〜」をテーマに開かれた本大会では、町社会福祉協議会長より、社会福祉活動や地域福祉の増進などに尽力された方々に対して表彰状が授与されたほか、高額寄付者への感謝状が贈られました。その後、町社協職員による、「社会福祉協議会は何をしているところ？」と題したスライド講話、児童生徒らによる福祉活動等についての体験発表や、虹のいえ利用者の青山さんから自作の歌が披露され、会場は大きな拍手に包まれました。

閉会后、チャリティイー・バザーが催さ